

## 史料室長に就任して

上 野 輝 将

一九九四年四月一日より史料室長に就任致しました。

いまから六、七年前、前任校の神戸女子薬科大学（現神戸薬科大学）図書館の書庫で、『神戸女学院百年史 総説』を手にしたのが、神戸女学院との最初の出会いでした。薬大の大学史づくりの参考にと、近隣の大学の年史類を物色して見て見つけたのが本書でした。その場でザッと目を通した第一印象は、他大学の大学史と比べて、なかなかしつかりした歴史書らしい大学史だな、というものでした。しかしまさかその時、将来、自分が神戸女学院にお世話になるうとは、まして史料室長に就任するなどとは夢にも思わなかったことは言うまでもありません。

神戸女子薬科大学の前身、神戸薬学専門学校はちょうど神戸女学院が岡田山に移転したころ、現在の東灘区岡本に移転して、同じように戦時体制下の困難な時期に女子高等教育の灯をともし続けました。この薬学専門学校から戦後の新制大学昇格までを叙述した『神戸薬科大学史 第一巻』は、私が神戸女学院に移ってから半ほど通い、ようやく二年前に刊行にこぎつけました。その時のなんとも言えない解放感は今も忘れることができません。この十年程、大学史や自治体史に幅広くかかわらざるを得なくなり、自己本来の研究テーマが追求できないもどかしさも正

直言っておりますが、大学史に或る程度携わって、その意義も私なりに理解したつもりです。

神戸女学院の史料室を初めて訪れた時は、木造のシックな山荘風の建物だけど、ちよつと古いという感想を持ちましたが、その後、史料室専門委員会や運営委員会の会議などで史料室の雰囲気にも次第に馴染むようになりました。

「史料室規定」によれば、史料室の仕事は、学院に関する文書的諸史料の収集、整理、保管、情報の提供、『学院史料』の発行、学院の歴史への関心を高める諸事業などですが、これらの具体的な仕事はいずれも若山晴子助手や寺西裕加恵さんたちによって、毎日コツコツと根気強く作業が進められております。その一端は、今号で一三号を数えるにいたった『学院史料』の毎号に掲載される宣教師文書の翻訳と綿密な考証、註記、索引などの労作にあらわされています。

こうした仕事は、将来、神戸女学院史を書き改める時に貴重な基礎資料となるであります。またそれにとどまらず、他のキリスト教系大学の大学史、近代日本のキリスト教史、異文化交流史などの研究にも大いに役立てられることでしょう。本学史料室には大学外から史料閲覧や紹介の要請が結構あり、ひよつとしたら史料室の仕事は、学内よりも学外での知名度のほうが高いかもしれません。学内では、若山助手による「大学史」の講義などでその研究成果の一部は紹介されていますが、今後、色々と工夫してより積極的に学院の皆さん全体に史料室の活動についてPRしていく必要があるのではと思っております。

史料室長として一つ懸念があるのは、史料室の建物の問題です。図書館長室に間借りしていた薬大に比べれば恵まれているのですが、古い木造建築ですので、貴重な資料の保管や整理という点で火災の問題など心配があります。こうした問題も含めて史料室の現状や将来像について、史料室専門委員会や運営委員会でお話を深める必要があることでしょう。私個人としては、日本現代史を研究しておりますが、自治体史等の仕事に追われてこれまで史料室の研究

活動に全く参加できませんでした。来年度は少し余裕ができそうなので、神戸女学院の昭和戦前・戦後の歴史を主として、ヒヤリングを含めたこの時期の史料発掘にそろそろ取り組みさせていただこうと思っております。

史料室の活動について学内の皆さんの忌憚のないご意見をお伺いし、関係各委員のご協力をえて史料室のより一層の発展に努めたいと思います。どうかよろしくお願い致します。